

果樹の凍霜害軽減技術の開発

1 目的

気候温暖化によりリンゴやナシなどの果樹類の生育は前進化傾向にあり、開花時期が早まることで、低温に遭遇する危険性が増大している。

本事業では、従来の凍霜害対策の中でも生産者が取組みやすい防霜資材の効果を確認し、併せて、多目的防災網の効果についても検証する。

2 研究計画・試験方法等

1) 防霜資材による凍霜害軽減効果の検証

- ・現地実証ほを設置し、防霜資材の散布効果について調査を行う。
- ・開花期の日本ナシ(切り枝)に防霜資材を散布し、その後、冷凍冷蔵庫へ搬入して低温処理(-2℃程度)を行い、防霜資材の凍霜害抑制効果を確認する。

2) 多目的防災網による凍霜害軽減効果の検証

- ・多目的防災網に簡易な燃焼法を組み合わせ気温の変化を確認する。



健全な果実



凍霜害により被害を受けた果実



防霜資材 (フrostバスター)



防霜資材 (霜ガード)



多目的防災網の活用

